

テーマ

# ハンセン病と国と私たち社会の関わり方

発行日

8月14日

発行著(氏名)

明桜中学校  
第3学年生徒

I このテーマの記事を選んだ理由を書いたのだ。

私は以前ハンセン病を題材にした本を読み、読書感想文を書きました。そこでハンセン病患者の隔離や施設での暮らしについて知りました。その本にはハンセン病に侵され、家族と引き離され、社会からも隔離されたと言われています。またハンセン病が完治した後もその独特の見た目や、過去にハンセン病であった事実、からの社会から拒絶されてしまうという苦しみも言われています。その苦しみや味わった元患者たちはもちろん、その「家族」という視点からも見るべきだと思いいこの記事を選びました。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

①について 会見の言葉から、元ハンセン病患者が、誤った対応をし、偏見を生んだ「国」に対し、深く謝罪を望んでいることが分かった。謝罪は、亡くなった人への弔いと家族が国に対して抱えている複雑な思いの解放になると思う。国が間違いを認め、謝るのには当然のこと。そこから先の対応についても深く求められていること、が分かった。

②について 見出しや原告の言葉、などあるようにハンセン病やその家族であったことでもう隠す必要がなくなったことを受けとめ、分けることが分かる。今までハンセン病患者の家族ということ、周りに「と壁を叩く、不当のことを知られてはいけない」という不安の中で生きてきた人たちに、それはこの上ない喜びと安堵だったと思う。

①と②を比べて分かったことと自分で調べてみたこと。

①は謝罪を強く求めていることを、②はもう隠す必要がないということを強調していると思ふ。違う視点だけど、どちらからでもハンセン病に対する差別により苦しめられた人たちの重たい思いが伝わってくる。もう多くの元ハンセン病患者が亡くなっている。でも今まだ苦しんでいる人が多くいる。その人たちの人生をたどってみたい。

III テーマについて、自分の考えや他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

私はこのテーマに沿って「責任があるのは」、「改善すべきは」という二つの視点から考えてみた。

まず「責任があるのは」国の責任は、誤った認識を手え、偏見を社会に植えつけたこと。今回、国が行ったこと、それが誤ったものであると認めた。国がおかした間違いの代償はとも大きい。もう一つの私たちがつづけた社会の責任。これは二つの新聞どちらにも共通して書かれている。たしかに、誤った情報を植えたのは国。しかし、実際に差別を行ってきたのは地域や学校など私たちが個人だと思ふ。誰もか考えなければいけないと思ふ。私が一番重要だと思ふのは「改善すべきは」。国は誤りを認めた。しかし重要なのはここからだと思ふ。国が流した誤った情報の責任はとも大きい。でも逆にとらえれば、国が誰よりも国民を動かす力を持っている。つまり、正しい情報を伝える今の国民の認識を交えることができると私は思ふ。もちろんそれだけではいけない。私たちがそれを待っているだけではない。私たちが自身が変わらなければいけない。今後、国や色々な団体の活動で、この問題について知る人が多く出てくると思ふ。でも知るだけでは終わってはいけない。そこからその人が何を学び何を考え、どう行動するのかが大切だと思ふ。私は読書感想文やこの作文で自分の考えを形にしてみたい。だから

次はそれを広めたいと思ふ。自分ができる最大限のことを実現していきたい。